



同人結社
創作鬼姫狂団世界總本部
信仰

<https://www.onihimekyo.com/>

空
○ 想
○ 靈
男 武
！ 劇
「
鬼
神
童
女
遊
俠
伝
／
邪
惡
！
妖
賊

作
・
民
富
田
智
明



他、子供達	女の子達	○男の手下達	○男の子供達を襲う邪悪の権化。	○妖賊○男の子供達を襲う邪悪の権化。	山鴉・夜鳴きの飛丸：お凜様のお供。	山狗・遠吠えの牙吉：お凜様のお供。	鬼神童女・花吹雪のお凜：武州総鎮守秩父鬼姫山三代目。子供達の味方。	登場人物	三神が現れて、○男と対決して退治する。	い掛かる。そこに、武州の平和を守る鬼姫山	邪悪な妖賊○男が現れ、子供達を狙って襲	粗筋
-------	------	--------	-----------------	--------------------	-------------------	-------------------	-----------------------------------	------	---------------------	----------------------	---------------------	----



○
 ○
 男
 「グオオオオオオ！」

出現し、女の子と子供達に襲い掛かる。
 突如、銃と刀で武装した妖賊○○男が
 大人はいない。
 女の子とその他子供達が遊んでいる。

○
 人の気配のないどこか

副題 「邪悪！ 妖賊○○男！」
 主題名・主題歌。

童女』とも呼んだ」

いた。人々は、お凧様のことを『鬼神
 姿の鬼神様に対する信仰が伝承されて
 悪な妖賊から子供達を守護する、童女
 凧様』という、秩父の山奥に住み、邪

語り「武州西部入間地方には、『鬼姫山のお

神号が添えられている。

三神（お凧様、牙吉、飛丸）の凶像に

『鬼神童女物語絵巻』の断片。鬼姫山

○ 絵巻物

女の子「きゃああああっ！」
逃げ惑う女の子と子供達。
○男が、容赦なく銃撃を浴びせる。
子供達がバタバタと凶弾に倒れていく。
女の子が足を撃たれながらも、必死に
這って逃げようとしている。
○男が抜刀して、女の子に詰め寄る。
○男「悪く思うなよ。恨みも何もねえ。た
だの遊びだ」
女の子「きゃああああっ！」
○男が刀を振り上げる。
その時、○男めがけて、お凜様がど
こから跳び込んで斬りかかる。
お凜様「うおおおっ！」
○男がお凜様の斬撃を刀で受ける。
お凜様と○男の力比べ。
牙吉と飛丸が現れ、女の子に駆け寄っ
て保護する。
お凜様と○男が後ろに跳んで間合い
を取る。



○ ○ 男 「 おめえ、誰だ！ 」
 お 凜 様 「 武州総鎮守秩父鬼姫山三代目、花吹
 雪のお凜じゃ！ 」
 牙 吉 「 遠吠えの牙吉だい！ 」
 飛 丸 「 夜鳴きの飛丸でやんす！ 」
 ○ ○ 男 「 あの鬼神童女か… 」
 お 凜 様 「 極悪非道な妖賊め。お天道さんの照
 らす下、何の咎もなき子供達に危害を加え
 るとは、見過ごす訳にはいかん。わしが成
 敗しちやる！ 」
 ○ ○ 男 「 ふん、おめえを倒せば武州最強って
 ことだ。俺が新たな支配者になってやる！ 」
 ○ ○ 男 の 手 下 達 が わ ら わ ら と 出 現 し 、
 お 凜 様 に 刀 で 斬 り か か っ て い く 。
 お 凜 様 が 牙 吉 飛 丸 と 共 に ○ ○ 男 の 手 下
 達 を バ タ バ タ 斬 り 倒 し て い く 。
 さ ら に 、 新 手 の 手 下 達 が 出 現 し 、 お 凜
 様 に 銃 で 撃 っ て く る 。
 お 凜 様 が 銃 を 抜 き 、 手 下 達 を バ タ バ
 撃 ち 倒 し て い く 。



お凍様「詫びなら地獄の閻魔様にせい！」

○男

「うぐっ！」

お凍様が○男に全力で刀を叩き込む。

「必殺、花吹雪！」

お凍様の刀に神力が集中し、発光する。

勢から高く跳躍し、抜刀する。

お凍様が刀を拾って納刀し、居合の姿

○男

「おおおっ！」

「っ飛ばす。」

形勢逆転して○男に激しく猛攻して

肉弾戦となる。

お凍様と○男が刀を手から落とし、

お凍様と○男が激しく斬り合う。

「ぶっ潰してやる！」

「次はきさんじゃ！」

「役に立たん奴らめ！」

あつという間に手下が全滅する。



語り 〇 絵 巻 物
 子供達を見守り続けているのである」
 鬼姫山の「お凜様は、鬼神童女は、今も
 〇 〇 男が倒れる。
 雪のよう大量の血飛沫が上がる。
 お凜様が納刀すると、〇〇男から花吹
 雪のよう大量の血飛沫が上がる。
 お凜様が女の手に駆け寄る。
 女の手の撃たれた足が痛々しい。
 お凜様に治しちやる！」
 お凜様が腰の瓢箪水筒を取り、女
 の子の傷に霊泉酒を振りかける。
 女の「うああっ！」
 湯気が立ち、女の子の傷が治っていく。
 お凜様「怖かったろう。もう大丈夫じゃよ」
 女の子「うああっ！」
 女の子がお凜様に抱きついて泣く。
 お凜様「他の子供達もすぐに治すで！」

完